

2025年度 同和問題にとりくむ大阪宗教者連絡会議（大宗連） 事業計画＜基本方針＞

「大宗連」は、人々を救い導く立場であるべき宗教者が、むしろ部落差別問題において差別の担い手であったことに気づかされたという大きな事実と反省から、在阪の宗教教団が各々の教えの根源に立ちかえり、部落差別を克服することを目的として、1982年に発足しました。

その目的実現のために、「大宗連」はこれまで多年にわたり、部落差別について啓発を進めると共に、加盟する教団・団体の啓発活動に共に取り組んでまいりました。

2022年2月に発生したロシアによる一方的なウクライナへの軍事侵攻から3年以上が経過しました。最近では欧米諸国の仲介により、収束に向けての取り組みが行われておりますが、状況は複雑で、今なお多くの方が困難な生活を強いられています。また、2023年10月7日には、ハマス（パレスチナ解放を訴える武装組織）によるイスラエルへの大規模攻撃に端を発した紛争についても、休戦協定に向けての協議が進められていますが、先行きは不透明で双方に多くの犠牲者、被害者が出ています。特にパレスチナ自治区（ガザ）で生活する多くの方々は難民として認定され、かなりの制限を受け、差別や貧困に苦しめられています。この他にも世界各地で紛争が頻発しており、混沌とした状況が続いています。この状況下で、多くの一般市民が身体的にも、精神的にも大きく傷ついています。暴力で、生命と財産を脅かす行為は重大な人権侵害です。私たち宗教者は絶対非戦の精神を新たにし、あらゆる場所での暴力行為を非難し、一刻も早く収束に向かうよう祈り、人権問題の課題として風化させることなく啓発してまいります。

また、私たちは宗教者として、それぞれの宗派の教義を説くと同時に、現在も厳然としてある「部落差別」の解消に向けた取り組みを進める必要があります。固定概念を取り払い、時代に沿った柔軟な考え方や発想の転換などにより、啓発活動の在り方を考えてまいります。併せて差別を助長しない社会づくりへ取り組んでまいります。

さらに、今年には第二次世界大戦の終戦から80年、日韓基本契約締結から60年、さらに昭和元年から数えて100年など、大きな節目を迎える一年となります。この節目に当たり、戦争時に横行したあらゆる差別問題に着目し、これまでの学びや経験を次世代に継承する体制を整え、後世に正しく伝える役目を担わなければならないと考えています。

以上のことから、今年度も大宗連結成の「原点に立ち返り」、これまで大宗連として取り組んできたが「未だ解決が図られない部落差別問題への取り組み」を中心的な視点として、「大宗連」主催の行事はもとより、各加盟教団や関係諸団体主催の研修等への積極的な参加を推し進めてまいります。さらに、私たちは部落差別を中心とした人権に関わる諸問題についての学びを深めていくことを通して、一人ひとりがかけがえのない個人として尊重される社会となるために活動することを基本方針といたします。

2025年度「大宗連」役員・常任委員・専門部会・事務局

【役員】

議長	伊藤忠茂	(大本)
副議長	吉村誠治	(出雲大社教)
	四斗晴彦	(金光教)
	岡田浩信	(浄土宗)
	飯田祐子	(神社本庁)
常任委員	松家宣崇	(高野山真言宗)
	高島保	(金光教)
	笹脇幹雄	(浄土宗)
	仲尾信博	(浄土真宗本願寺派)
	西埦康行	(真言宗御室派)
	禿信敬	(真宗大谷派)
	黒澤正往	(真宗興正派)
	中井賢隆	(真宗佛光寺派)
	公文孝枝	(新宗連同和推進連絡協議会)
	霊群徹全	(西山浄土宗)
	金子丈雄	(曹洞宗)
	山本道明	(天理教)
	尾島信之	(日本基督教団)
	柳時京	(日本聖公会)
	西正二	(念法眞教教団)
	松川了篤	(融通念佛宗)
	塚原昭應	(和宗)
監事	成田信哉	(金光教)
	小林聡	(日本聖公会)
顧問	北浦徳次	(天理教)

【代表委員】

北浦徳次	(天理教)	同和問題解決(部落解放)・人権政策確立要求大阪実行委員会
関伽井啓三	(融通念佛宗)	(一社)部落解放・人権研究所
大江拓真	(真宗大谷派)	世界人権宣言大阪連絡会議
柳時京	(日本聖公会)	国際人権大学(夜間)の実現をめざす大阪府民会議

【専門部会】

企画・研修部	大宗連事務局が兼務
広報部	福田吉和(天理教)

【事務局】

事務局長 山口孝明(大本)